

子宮頸がん検診を受ける前に 知っておくこと

子宮頸がんは罹患する人（かかる人）がわが国の女性のがんの中でも比較的多く、また30～50歳代で多いがんです。国が推奨している子宮頸がん検診（子宮頸部の細胞診）は「死亡率、罹患率を減少させることが科学的に証明された」有効な検診です。早期発見、治療で大切な命を守るために、20歳以上の女性は2年に1度繰り返し検診を受診し、「要精密検査」という結果を受け取った場合には必ず精密検査を受けるようにしてください。

すべての検診には「不利益」があります。がんは発生してから一定の大きさになるまでは発見できませんし、検査では見つけにくいがんもありますので、すべてのがんががん検診で見つかるわけではありません。また、がんでなくても「要精密検査」と判定されることもあります。子宮頸がんは前がん病変も検診で見つけられるのですが、この中には放置しても治癒してしまうものも多いために、結果的に不必要な精密検査や治療を受けなければならない場合もあります。さらに、検査によって出血などが起こることがあります。

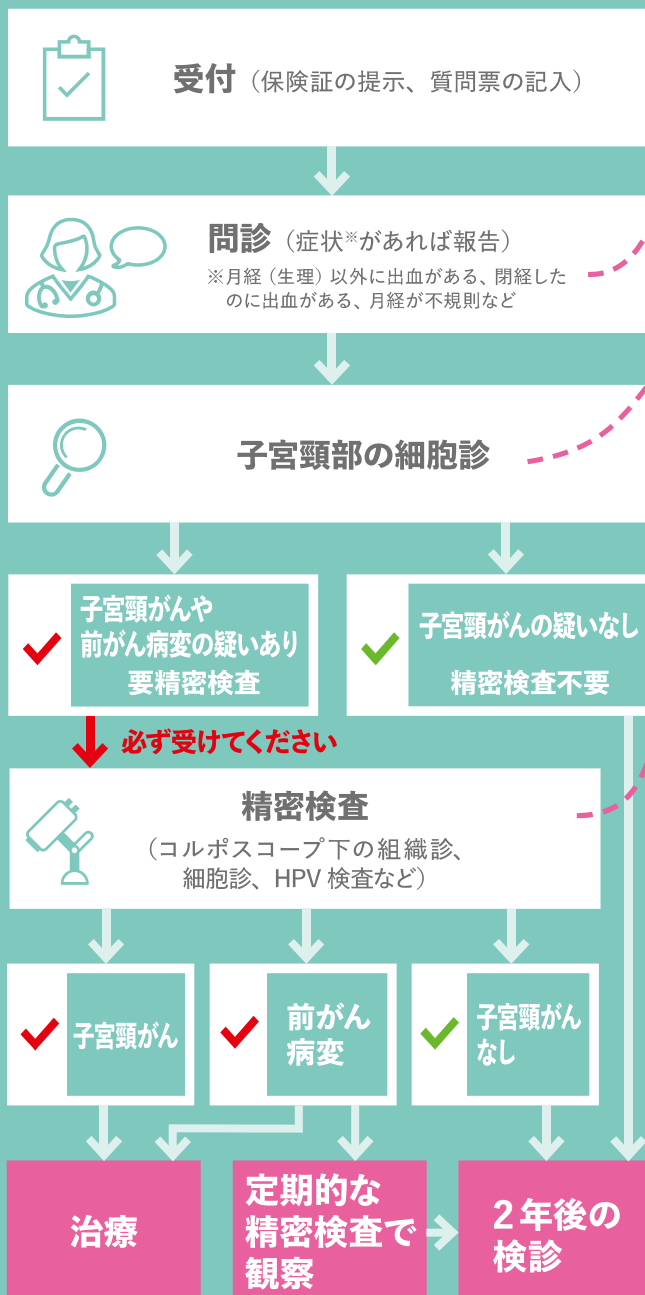
がん検診の利益（がんで亡くなることを防ぐ）と不利益のバランスの観点から、このリーフレットにある受診年齢、受診間隔、検査項目を守りましょう。

詳細はこちらをご覧ください。

https://ganjoho.jp/public/pre_scr/screening/about_scr01.html



子宮頸がん検診の流れ



前がん病変が見つかった時には、状態によって治療を行う場合もありますし、治療をせずに医療機関で定期的に経過観察になる場合もあります。

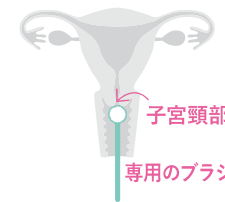
気になる症状がある場合

月経（生理）以外に出血がある、閉経したのに出血がある、月経が不規則など、気になる症状がある場合は問診の際に医師に必ずお伝えください。不正出血が疑われる症状がある場合は子宮頸がん検診を待たず、すぐに婦人科を受診してください。また、現在婦人科で治療中や経過観察中の方は、がん検診を受けられない場合がありますので、主治医にご相談ください。

子宮頸部の細胞診

子宮頸がん検診は子宮頸部（子宮の入り口）を、先にブラシのついた専用の器具で擦って細胞を取り、がん細胞など異常な細胞がないかを顕微鏡で調べる検査です。

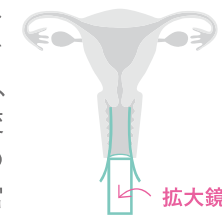
※月経（生理）中は避けて検査を受けてください。



子宮頸部をブラシで擦り、細胞を取って顕微鏡で見る

精密検査はコルポスコープ下の組織診、細胞診、HPV検査の組み合わせ

細胞診で異常が発見されたらコルポスコープ（腔拡大鏡）を使って子宮頸部を詳しく見ます。異常な部位が見つければ、組織を一部採取してがんや前がん病変がないかを診断します。また、細胞診の結果によってはHPV検査を行い（子宮頸がんを引き起こすウイルスの有無を調べます）、コルポスコープ検査が必要かどうかを判断することもあります。



子宮頸部を拡大鏡で見る

20歳以上になってから、2年に1回、細胞診を繰り返し受けることで、子宮頸がんで亡くなることを防ぐことができます

子宮頸がんの中には急速に進行するがんもあります。早期発見のために必ず2年に1度、くりかえし検診を受けてください。検診は受けすぎると不利益が大きくなりますので、推奨された年齢と間隔を守りましょう。